

# 若い頃のリハビリ経験が原点 飲食店から男性ヘルパーへ

異業種転職

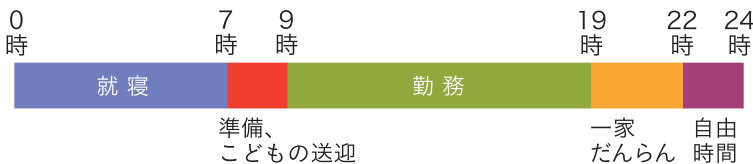
後藤 慶一郎さん / 46歳

麻生介護サービス株式会社 アップルハート城南ケアセンター  
管理者・介護福祉士

キャリア

20歳頃	交通事故でリハビリ生活を送る
24～25歳頃	リハビリ機器販売会社に勤務
30歳頃	飲食店に勤務
39歳頃	介護の仕事に転職

ある日の1日



- 自分のリハビリ経験をきっかけに介護職に転職
- 介護は利用者さんの数だけ方法があるクリエイティブな仕事
- 感情を読み取るスキルは子育てにも役立つ



## 福祉の仕事をする前は何をしていた？

### — 機器営業や飲食業を経験

24、25歳頃は、リハビリ機器の販売会社で営業をしていました。30歳の時に鹿児島から福岡に戻ってきて、飲食業に転職しました。もともと福祉に関心はあったんですが、飲食業にはまってしまって。10年ほど勤めましたね。接客や調理などを学び、店長を任されてからは、従業員の育成とか、店のマネジメントもやっていました。

リハビリ機器の営業の頃に勉強した、骨や体のつくりに関する知識とか、飲食業の頃の調理の経験は、今の仕事でも役に立っています。女性の利用者さんに、「男性なのに料理が上手！」と驚かれました。

### — きっかけは、事故で入院した経験

20歳の時に交通事故に遭って、左足を怪我して3か月くらい入院したんです。リハビリの期間も含めると、半年以上介護やリハビリのお世話になりました。自分が実際に怪我から回復する経験をして「こんなに治るものなんだ」って驚きましたね。そういう経験があって、将来は福祉の仕事に就いてみたいなあと思ったんです。39歳の時に、そろそろやってみようと思って、今の職場に転職しました。介護の仕事をするなら、訪問介護って決めてたんです。事故のあと、退院して家に帰ってからがすごく苦労したんです。だから、自宅で支援ができる訪問介護にしようと思っていました。

## ！ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？



### — 介護はクリエイティブな仕事

介護は女性の仕事というイメージが強かったですね。自分も働いてみたいって思いましたが、男性で働けるのかな、という疑問はありました。

仕事を始めてみると、すごくりアルでした。お金の問題、家のなかの環境、コミュニケーションの取り方とか、一人ひとり違って、問題があれば解決しながら進めていかないとけない。その分、支援やサービスの組立てを考える楽しみがありました。決まったやり方があるわけではないので、クリエイティブだと思いますね。

あとは、新しい利用者さんを訪問するときの緊張感は、いい意味で刺激になります。お互いの緊張感をどう崩していくか。気持ちがつながる場面ができるとホッとします。

## ！ 仕事以外はどんな生活をしている？

### — 介護と子育ての共通点

4歳になる娘がいるんですが、子どもの表情とか言葉や動きから、何を訴えようとしているのか、読み解こうとしているのは介護の影響かもしれないですね。子どもがそわそわしたり、夜泣きをしたりしますが、高齢の方や障がいのある方にも不穏な状態というものがあります。“家族”という立場になると、どうしても感情が入ってしまうので、冷静ではいられなくなりますよね。そういう時に、仕事と同じように客観的な視点で、子どもにも接している気がしますね。

### — 食事で体のケア

自身の体のケアには気を付けています。自慢じゃないですが、体調不良で仕事を休んだことが一度もないんです。仕事を休んだのは、妻の出産のときと、親族の不幸があったときだけ。とにかく食事、栄養には気を付けています。



取材を  
終えて

後藤さんは、がっしりとした体格に柔らかい物腰で、何でも受け止めてくれそうな安心感のある方でした。ご自分の経験を糧に、ステップアップされる姿はとても印象的でした。